

農地中間管理機構を活用し担い手への農地集積・集約化と荒廃農地対策を進めた事例 〔茨城県茨城町〕

1. 地域農業の状況

○ 茨城町は、茨城県のほぼ中央に位置し、汽水湖「涸沼」をはじめとする水と緑の豊かな自然環境と県都水戸市に隣接し生活環境に恵まれ、都市部と農村部が調和した町として発展を続けている。



町域は、東西17km、南北14km、面積は121.64km²で、町の中央部を涸沼前川、涸沼川、寛政川の3本の川が流れ、東端に位置する涸沼に注いでいる。

○ 町域の約半分が農地で、温和な気候と関東平野特有の平坦地を生かした農業の盛んな地域であり、稲作を主生産物とし露地野菜、施設野菜、施設花き、畜産等を組み合わせた複合経営が行われている。

○ 本件の取組が行われた荒廃農地は、草木が繁茂し、周辺農地への悪影響が懸念されていた。



(再生前の様子)

(地権者との現地確認の様子)

2. 荒廃農地の再生利用の取組

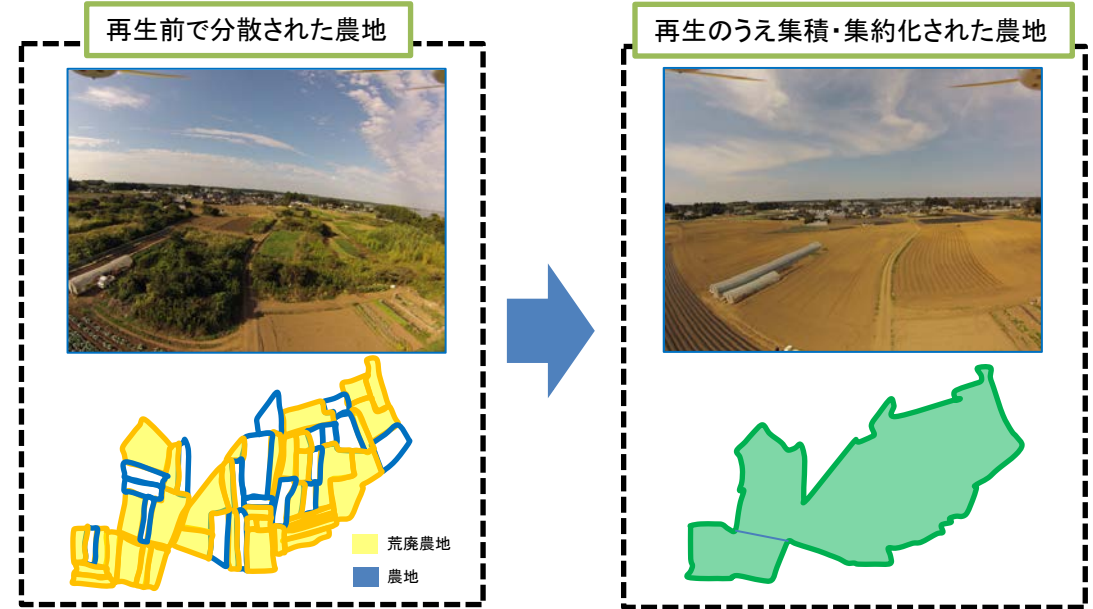
取組主体	農業者2名(個人)	地区名	網掛(あがけ)地区
再生面積	2.1ha	取組年次	平成26年11月～平成27年2月
作付作物	ばれいしょ、かんしょ	販路	JA等に出荷

農地中間管理事業を活用し、荒廃農地に加えて周辺農地も併せて担い手に集積・集約化

○ 荒廃農地のみでなく、周辺の農地まで含んだ形で一体的に集積・集約化することで、担い手にとって使いやすい農地とし、地域内の農業者へのマッチングに成功した。

(荒廃農地2.1haを含む計55筆、地権者22名の2.9haの農地を集積・集約化)

取組にあたっては、地元の区長と町の職員が中心となって、地権者等の調整を行うことで、農地の出し手・担い手の確保がスムーズに進んだ。



活用した支援策

H26 耕作放棄地再生利用緊急対策交付金(国)

H26 いばらきの畑地再生事業(県・町で国の補助残を1/2ずつ負担)